

## 「まさか子育ての話になるとは・・・」

映像ディレクター 高橋夏子

山極寿一さま

この度は大変面白いお話をご講義下さりありがとうございました。ゴリラの話だと思っていたら、人類の子育ての話が山盛りで、目をギンギンさせながら聞いておりました。

と申しますのも、私は子育て番組を制作しており、今の社会で子育てすることの難しさを痛感しながら取材を続けているからです。<https://www.nhk.jp/p/sukusuku/ts/DNYRMZW5Q1/>

取材を通じて特に感じるのは、子育てを「おんなこども任せ」にしてきた社会の圧が、親子にとって大きな負荷となっているということです。

男は外で仕事(死ぬまで働け)、女は家で家事育児(子どもの責任は母親が負え)という、明治期から続き高度成長期に強化された、日本社会の規範(圧力)のようなものが、令和の今になってもマグマのように地下でうごめいています。

母親のワンオペ育児(一人で育児を担うことのスラング)は、多分もう 50 年くらい続いています。それは親も子も、追い詰めます。さすがに、今の子育て世代の中には「おかしい」と気づき始めている人も増えていますが、社会構造や、世の中を覆う考え方の変化は遅々としています。

ヒトは本来、共同養育の生き物で、両親だけ、ましてや母親だけで育てるものではない。そんなことを、多くの科学者たちが発信してくださっています。そんなご研究の数々を手掛かりに、ヒト本来の子育てをとり戻せないものかと、私も微力ながら取材・発信を続けています。ゴリラに学ばねば・・・

ところで、ゴリラの挨拶はアイコンタクトなのですね。あの映像を見て「これはユマニチュードだ！」と思いました。<https://jhuma.org/humanitude/>  
「ユマニチュード」とは、認知症のある人などとのコミュニケーション技法・哲学なのですが、「見る」ということを柱にしています。実際、なかなか意思の疎通ができない認知症のある方と、何とか視線を合わせてみると(その動作はまさにあのゴリラと同じ！)、不思議なくらいつながりあえるのです。

ユマニチュード考案者のイヴ・ジネスト氏によると、赤ちゃんが生まれると、親や周囲の人は自然と赤ちゃんの目をまっすぐ見て話しますが、これは「あなたは人間社会に迎えられたんですよ」ということを伝えるもので、「人間として誕生すること」なのだそうです。その原点はゴリラにあったのか・・・と震えるような思いでした。ゴリラに教えてもらうことばかりですね。ありがとうございます。

※ユマニチュードについては、京大ではかなり力をいれていらっしゃいますね。(私も現在、日本ユマニチュード学会での映像発信のお手伝いさせていただいております。)

<https://ifohs.kyoto-u.ac.jp/archives/9788>

<https://kango.kuhp.kyoto-u.ac.jp/activity/humanitude>